

# 被災地応援の取り組み

社友会分会 ネットワーク委員会

■社友会分会「ネットワーク委員会」の被災地訪問も六百回となりましたが、今年には本白根山の突然の噴火により被災した草津温泉周辺を訪ねることにしました。

今年も北海道中・四国など、甚大な自然災害に見舞われた地域が多くありました。心よりお見舞い申し上げます。

## 温泉番付「東の横綱」草津温泉

草津温泉は群馬県吾妻郡草津町にある温泉で、草津白根山の東山麓にあります。江戸時代から名湯として知られ、温泉番付の格付けでも「東の大関」が定位置であったようです。その評価はいまだに不動で、町役場の掲示物によると「東の横綱・草津温泉」であり「温泉百選・十五年連続第一位」とのことです。

草津温泉を訪れる観光客も年々増え続け、平成二十



(草津町役場のカウンター)

八年には宿泊客二百四万人・日帰り客百三万人・合計で三百七万人と、初めて年間三百万人の万台に乗りました。その翌年の平成二十九年には、宿泊客二百二十二万人・合計で三百二十五万人と前年比五・八%の増加となり、まさに「東の横綱」の座は揺るぎないものでした。



(草津町役場のポスター)

## 前兆のない突然の噴火

平成三十年一月二十三日午前十時過ぎ、多くのスキー客で賑わう草津国際スキー場わきの本白根山鏡池の北側で、前兆のない突然の噴火が発生しました。折あしくスキー場で訓練中だった自衛隊員一名が噴石に当た



本白根山の噴火(1/23)

って死亡したほか、自衛隊員七名とスキー客四名の計十一名が負傷しました。

即日噴火警戒レベルが入山規制・警戒範囲二キロの「レベル三」に引き上げられましたが、その後火山活動が落ち着いてきたことから、三月十六日に「レベル二」に引き下げられました。また、冬季に閉鎖されていた志賀高原や万座へ抜ける人気の観光道路である志賀・草津道路(国道二百九十二号線)も、例年通り四月二十日に開通しました。

しかしながら、その後間もなく湯釜付近で火山性地震が頻発したことから、この高い人気を誇る高原ルートは二十二日には再び通行止めとなり、九月二十一日に解除されたものの、二十八日にはまたもや通行止めとなつて現在に至っています。



(通行止めとなった292号線)

## 草津国際スキー場が・・・

一月二十三日の噴火は、「草津国際スキー場」にある白根火山ロープウェイの山頂駅近くで発生しました。白根火山ロープウェイは平均二十センチ程度の噴石を浴びて山頂駅屋根に穴が開いたほか、ゴンドラの多くが破損しました。このため、翌日から天狗山ゲレンデと御成山ゲレンデのみで営業を再開したものの、二月九日に「白根火山ロープウェイ」の廃止が決定されました。これにより、山頂付近の本白根ゲレンデ・山頂部からの沢コース(清水沢コース・振子沢コース)が廃止となり、草津国際スキー場の上級者向け名物コースが姿を消すことになりました。



(廃止が決定した白根火山ロープウェイ)

## 草津温泉への影響

草津温泉は、噴火した本白根山より五・五キロ以上、火山活動が懸念される湯釜からは七キロ以上離れており、噴火の直接的な影響はありません。また、一月二十三日の噴火による直接的被害も「草津国際スキー場」付近に限られていました。

しかしながら、草津温泉への観光客数は二十三日と下旬に発生した災害であるにも拘わらず、一月ひと月で五・〇%の減少となりました。翌二月も前年比五・〇%、三月五・三%、四月六・一%と減少が続く、本来なら「志賀・草津高原ルート」が開通しているはずの五月には、前年比十五・四%と大きく減少してしまいました。

これに危機感を募らせた草津町は観光団体とともに「経済緊急対策本部」を設置し、観光協会と観光公社を町が直接指揮する体制を構築して、風評被害の払拭に乗り出しました。

六月十五日に「安全宣言」を出して観光ポータルサイトに大きく掲示するとともに、九月までの限定ではあるものの、「ふるさと納税」の返礼品として町内の宿泊施設などで使える「くさつ温泉感謝券」の返札割合を三割から四割に引き上げて艇子入れを図りました。その後、観光客の減少幅は少しずつ小さくなりましたが、九月の減少幅はなお前年比十二・八%もあり、人気の「志賀・草津高原ルート」の閉鎖が大きく影響しているようにも思われます。



「くさつ温泉感謝券」

## お訪ねください!!

私たちネットワーク委員会一行は、ちょうど紅葉の見ごろの十一月四日に草津温泉を訪ねました。東京から関越自動車道を走り、渋川伊香保ICで降りて伊香保温泉への分岐を左に見ながら、日本ロマンチック街

道を吾妻川に沿ってひたすら西へ進みます。

溪谷が深くなると紅葉真っ盛りの吾妻峡です。溪谷を吾妻川まで降り、素晴らしい紅葉や奇岩を楽しみながら川に沿った遊歩道を遡ると、巨大な八ッ場ダム(建設中)を目前にすることができます。

新・川原湯温泉から不動大橋を渡り、道の駅「八ッ場ふるさと館」を過ぎると二十キロほどで草津温泉です。東京からの時間距離は電車・自動車とも三時間程度と、比較的短時間で行けるのも魅力のひとつです。

翌日は月曜日にもかかわらず、草津温泉の湯畑・光泉寺周辺は多くの観光客で賑わっていました。白根山麓には西の河原公園や草津温泉スキー場(「草津国際スキー場」から名称変更)などの観光スポットも多くあり、さすがに年間三百万人が訪れる観光地との印象を受けました。



(有名な「湯畑」)

湯釜・白根山周辺の火山活動はなお予断を許さないものがあります。草津温泉街への影響は心配なしとのこと。「ふるさと納税」での支援返礼品の「くさつ温泉感謝券」などを活用して名高い名湯を堪能されてはいかがでしょうか。